

## 在宅介護実態調査の集計結果

国より提示された内容に基づき、介護保険事業計画策定の基礎調査として在宅介護実態調査を実施しました。

- 1 調査対象  
在宅の要支援・要介護認定者で、更新申請・区分変更申請をされた方
- 2 調査期間  
令和元年12月2日～令和2年6月22日
- 3 調査方法  
認定調査時に認定調査員の聞き取り
- 4 調査・回答件数  
622

※図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示しています。

※図表内の「(数値)」は、前回調査時（平成28年12月から平成29年2月に実施）の結果

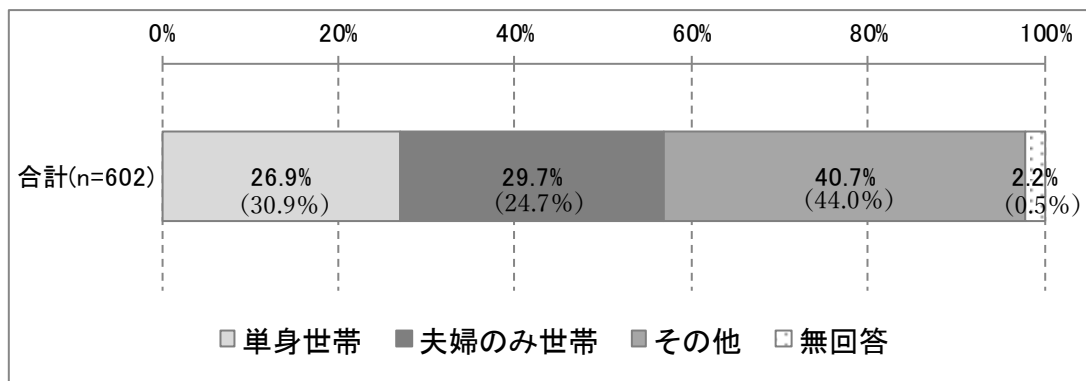
## 目次

1	基本調査項目（A票）	76
	（1）世帯類型	76
	（2）家族等による介護の頻度	76
	（3）主な介護者の本人との関係	77
	（4）主な介護者の性別	77
	（5）主な介護者の年齢	78
	（6）主な介護者が行っている介護	79
	（7）介護のための離職の有無	80
	（8）保険外の支援・サービスの利用状況	80
	（9）在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	81
	（10）施設等検討の状況	81
	（11）本人が抱えている傷病	82
	（12）訪問診療の利用の有無	83
	（13）介護保険サービスの利用の有無	83
	（14）介護保険サービス未利用の理由	84
2	主な介護者様用の調査項目（B票）	85
	（1）主な介護者の勤務形態	85
	（2）主な介護者の方の働き方の調整の状況	85
	（3）就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	86
	（4）主な介護者の就労継続の可否に係る意識	87
	（5）今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	87
3	要介護認定データ	88
	（1）年齢	88
	（2）性別	88
	（3）二次判定結果（要介護度）	89
	（4）サービス利用の組み合わせ	89
	（5）訪問系サービスの合計利用回数	90
	（6）通所系サービスの合計利用回数	90
	（7）短期系サービスの合計利用回数	91
	（8）障害高齢者の日常生活自立度	92
	（9）認知症高齢者の日常生活自立度	93

# 1 基本調査項目（A票）

## (1) 世帯類型

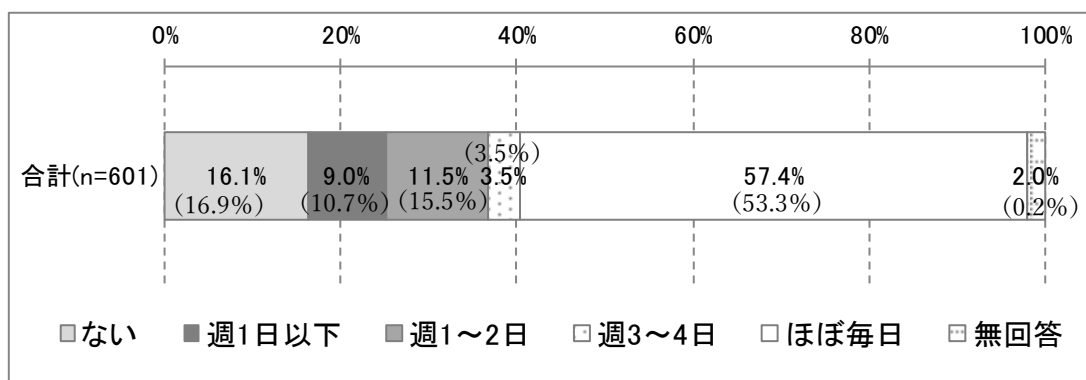
図表 1-1 世帯類型（単数回答）



「その他世帯（単身・夫婦のみ世帯以外）」の割合が最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」の割合が高くなっています。なお、前回調査時と比較し、「夫婦のみ世帯」の割合が増加しています。

## (2) 家族等による介護の頻度

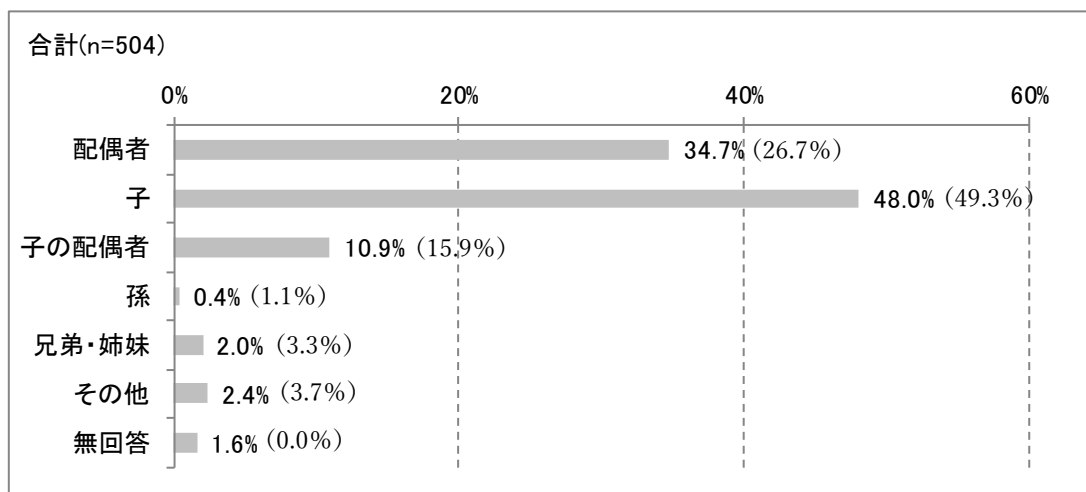
図表 1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）



家族等による介護がある場合、その頻度は「ほぼ毎日」が半数以上を占めています。前回調査時と比較しても、「ほぼ毎日」が占める割合が増加しています。

### (3) 主な介護者の本人との関係

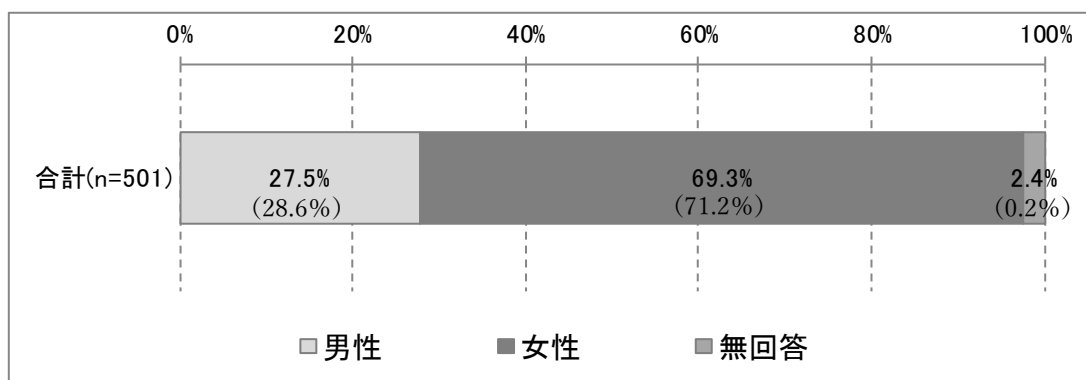
図表 1-3 ★主な介護者の本人との関係（単数回答）



家族等による介護がある場合、主な介護者は「子」の割合が最も高く、次いで「配偶者」の割合が高くなっています。なお、前回調査時と比較し、「子の配偶者」の割合が低下する一方、「配偶者」の割合が増加しています。

### (4) 主な介護者の性別

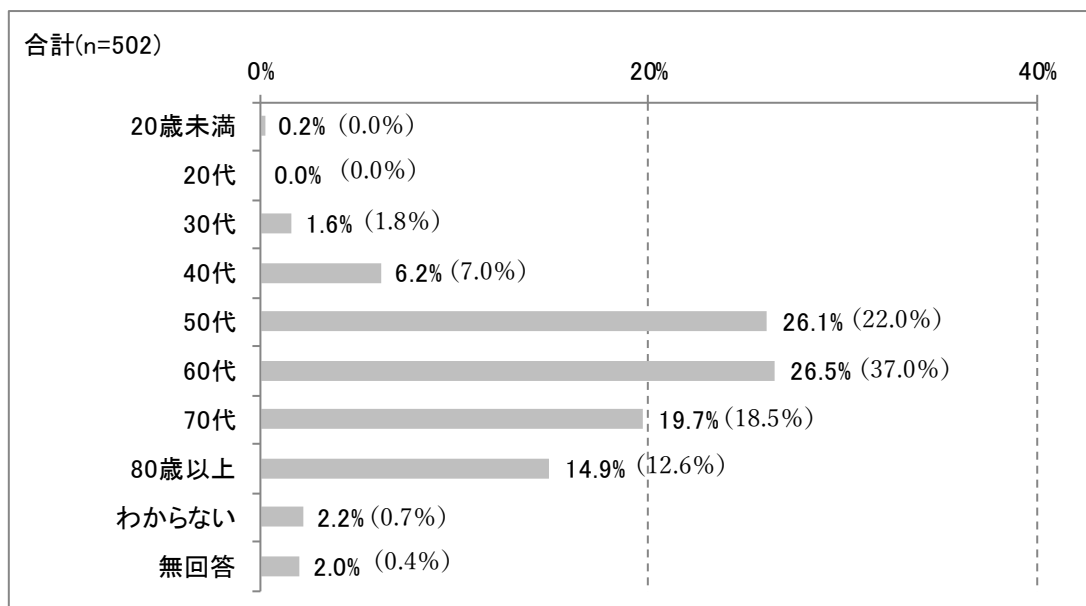
図表 1-4 ★主な介護者の性別（単数回答）



主な介護者の性別は、「女性」が約7割を占めています。

### (5) 主な介護者の年齢

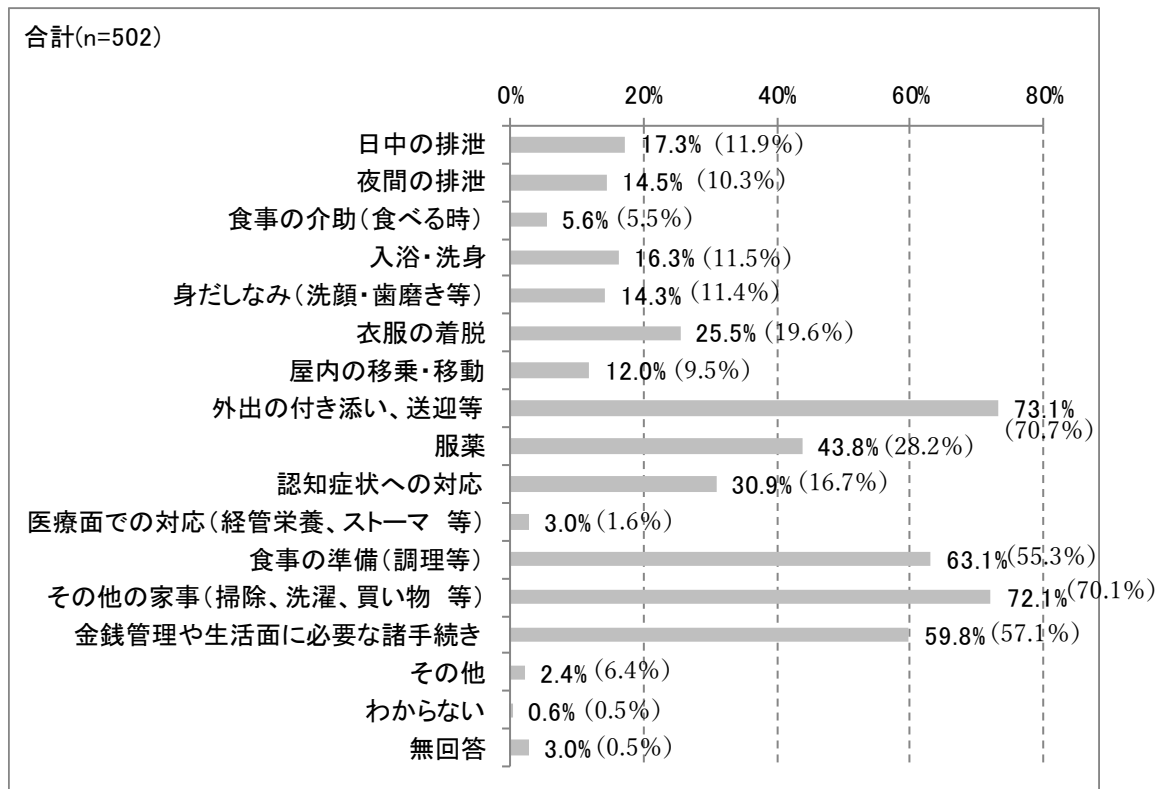
図表 1-5 主な介護者の年齢（単数回答）



主な介護者の年齢は「60代」の割合が最も高く、次いで「50代」の割合が高くなっています。なお、前回調査時と比較し、50代以上の介護者の割合が増加しています。

(6) 主な介護者が行っている介護

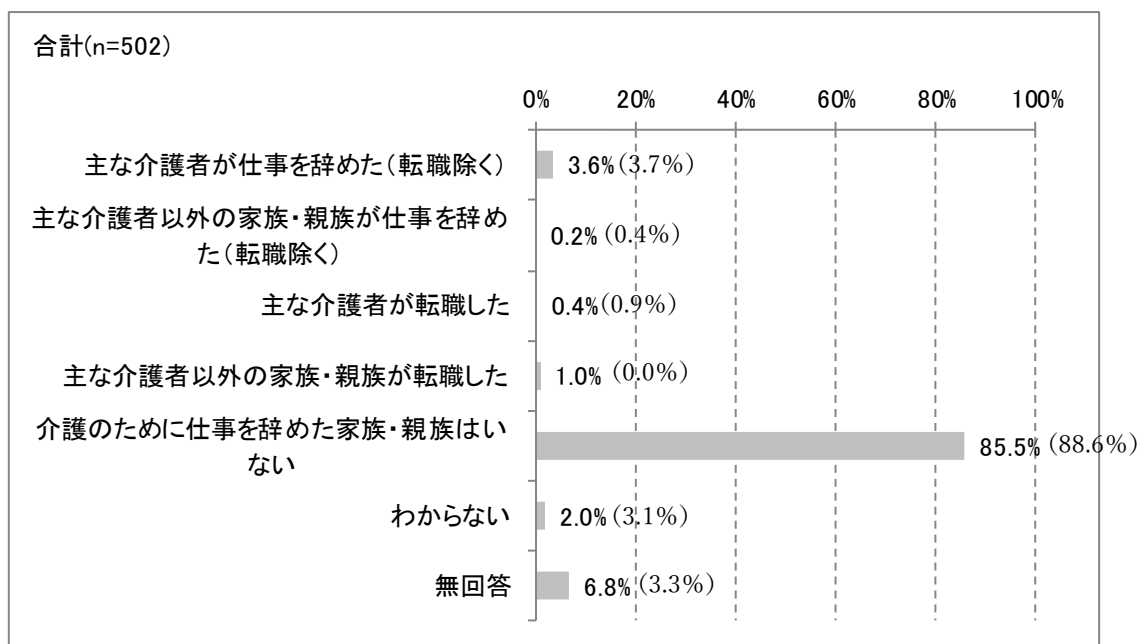
図表 1-6 ★主な介護者が行っている介護（複数回答）



主な介護者が行っている介護では、「外出の付き添い、送迎等」の割合が最も高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」の割合が高くなっています。なお、前回調査時と比較し、どの項目も割合が増加しています。

(7) 介護のための離職の有無

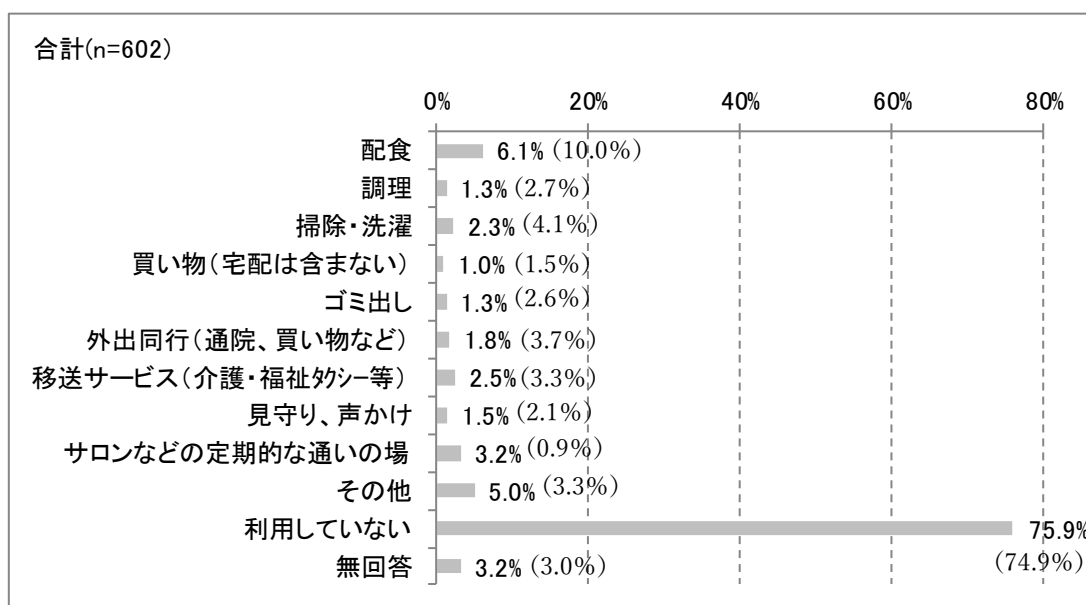
図表 1-7 介護のための離職の有無（複数回答）



介護のために仕事を辞めた家族・親族（介護離職者）の割合は低い状況です。前回調査時と比較しても、その割合は減少しています。

(8) 保険外の支援・サービスの利用状況

図表 1-8 ★保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）

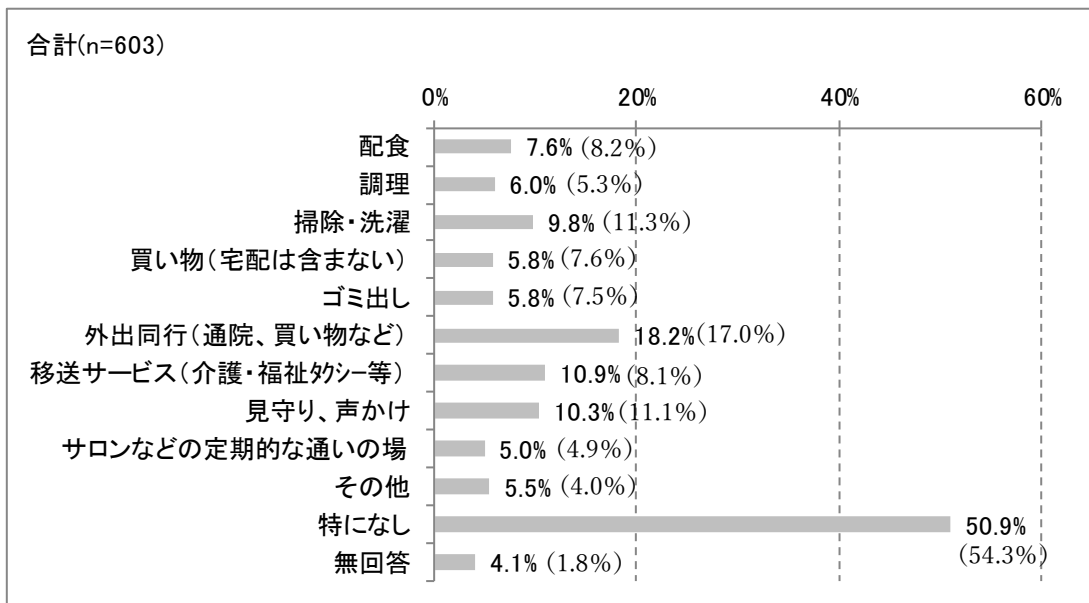


保険外の支援・サービスを利用する割合は低い状況です。なお、前回調査時と比較し、全体的に割合が減少する一方、「サロンなどの定期的な通いの場」については増加しています。



(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

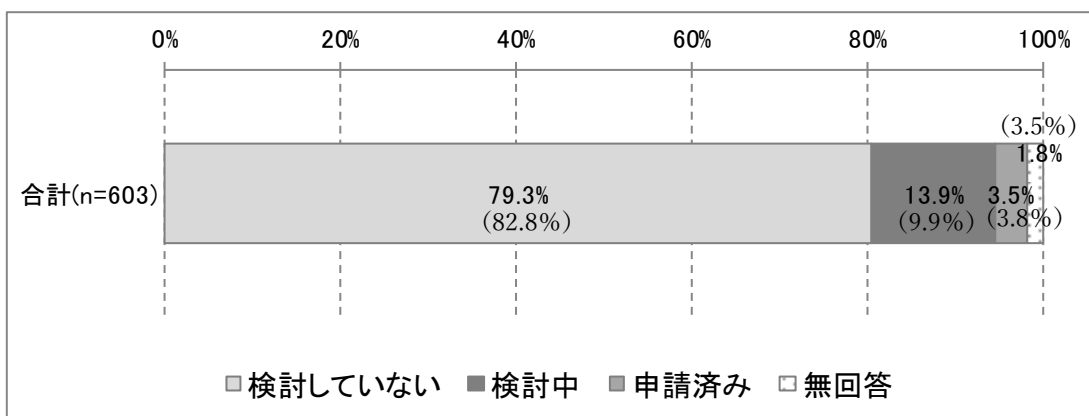
図表 1-9 ★在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービスでは、「特になし」が半数を占めていますが、「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り・声かけ」などのニーズはある程度存在しています。なお、前問と同様、前回調査時と比較すると、全体的にニーズが減少しているものの、「サロンなどの定期的な通いの場」についてはニーズが増加しています。

(10) 施設等検討の状況

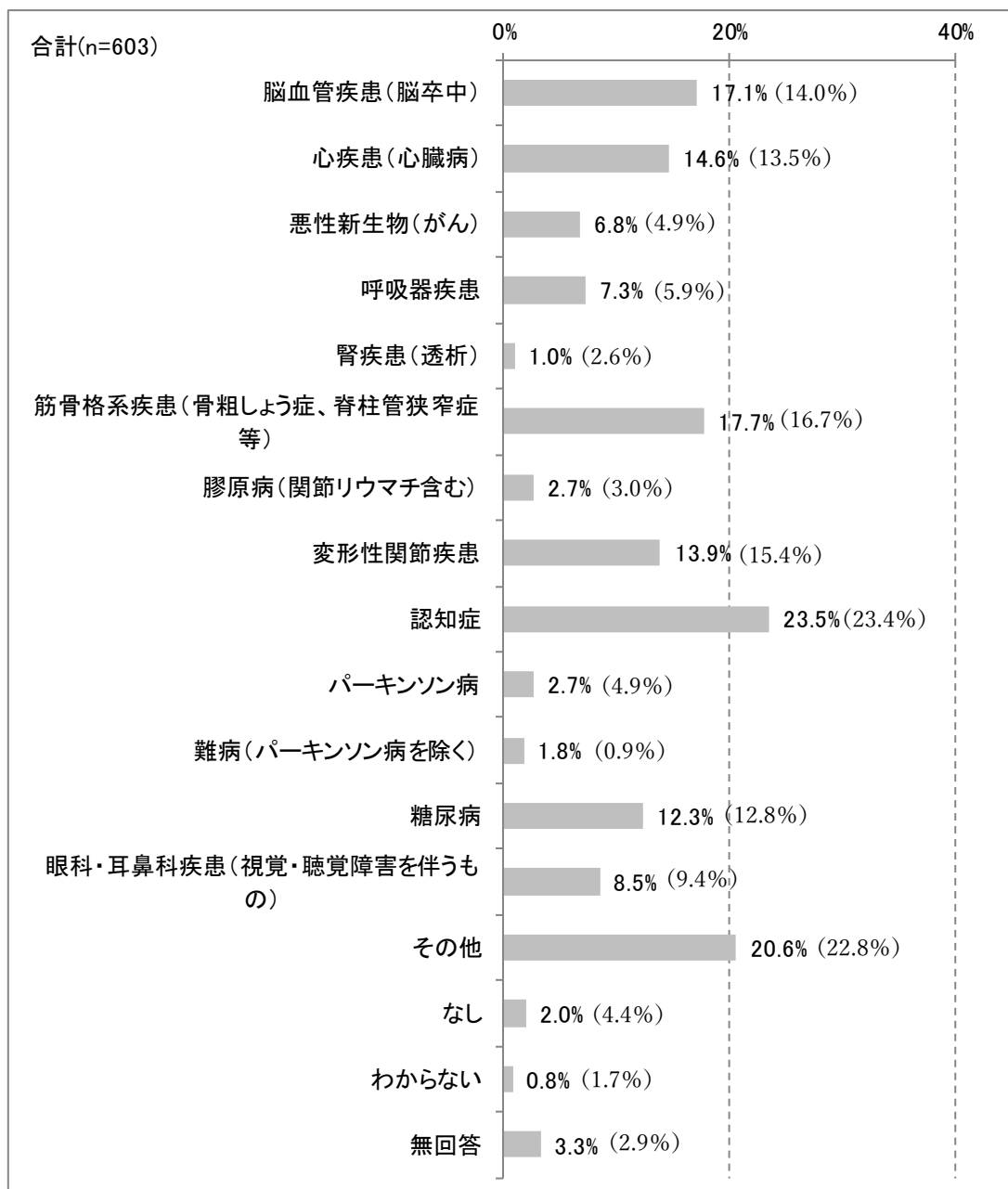
図表 1-10 施設等検討の状況（単数回答）



施設等入所を検討している者の割合は低い状況にありますが、前回調査時と比較すると、その割合は増加しています。

(11) 本人が抱えている傷病

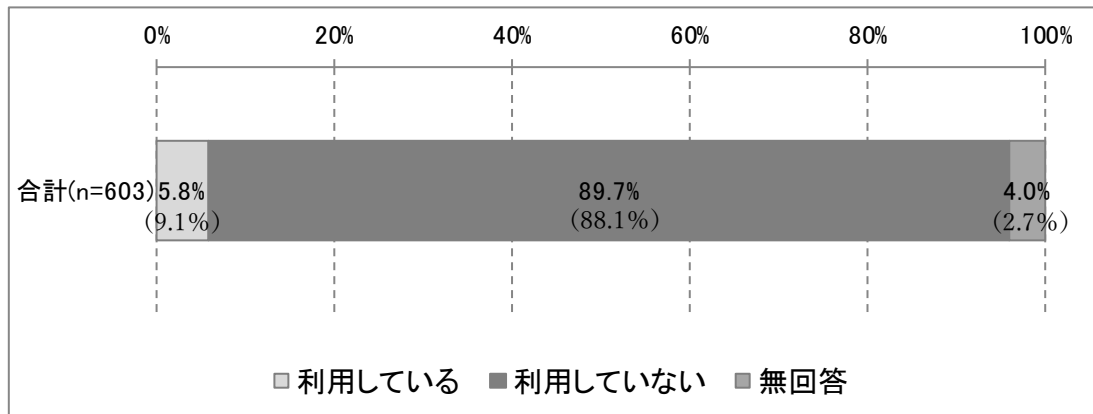
図表 1-11 ★本人が抱えている傷病（複数回答）



本人が抱えている傷病では、前回調査時と同様、「認知症」の割合が最も高くなっています。

(12) 訪問診療の利用の有無

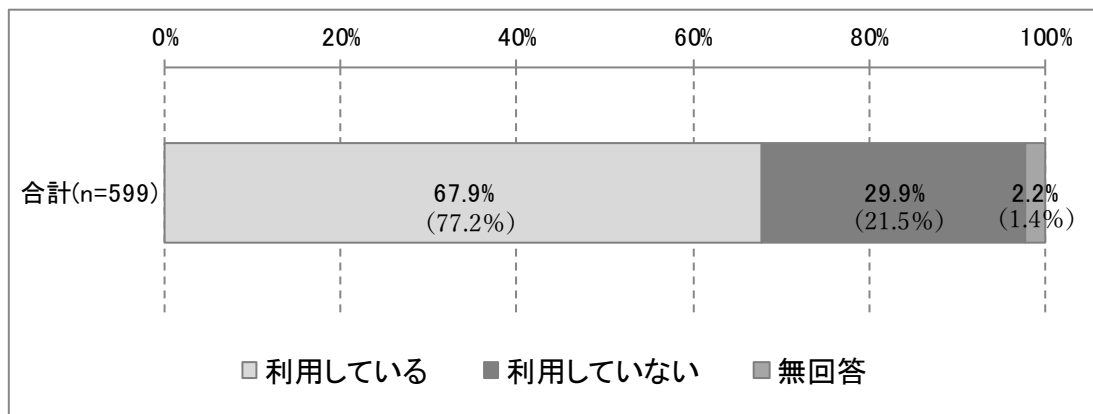
図表 1-12 ★訪問診療の利用の有無 (単数回答)



訪問診療を利用している者の割合は低い状況です。

(13) 介護保険サービスの利用の有無

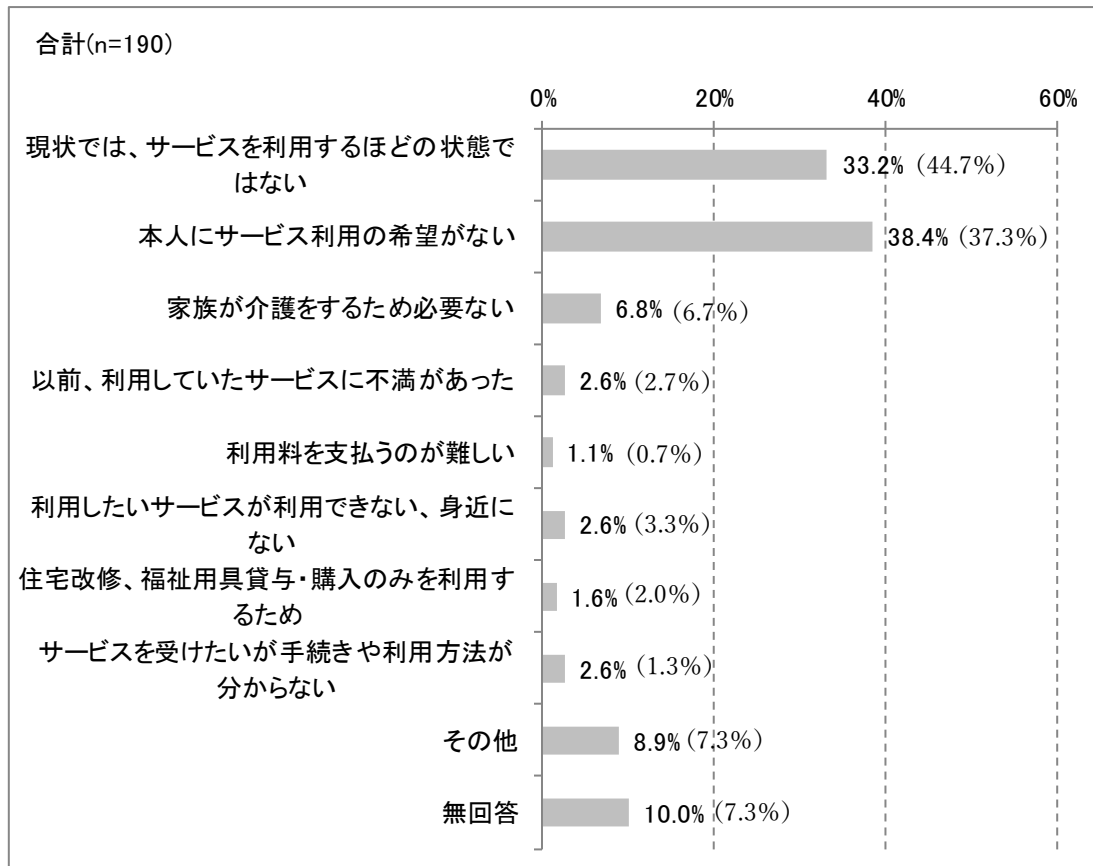
図表 1-13 ★介護保険サービスの利用の有無 (単数回答)



介護保険サービスを利用している者の割合は約7割となっています。なお、前回調査時と比較すると、その割合は減少しています。

#### (14) 介護保険サービス未利用の理由

図表 1-14 ★介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）

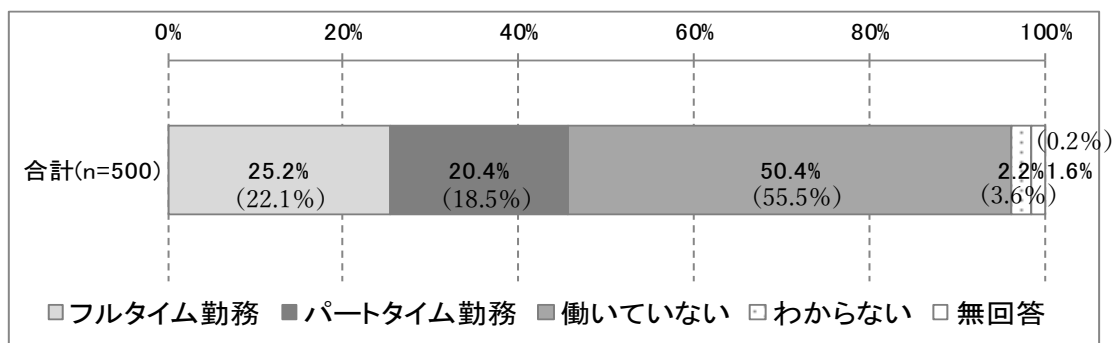


介護サービスを利用しない理由では、「本人にサービス利用の希望がない」が最も多く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が多くなっています。なお、前回調査時と比較し、多くの理由がほぼ横ばいとなっていますが、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」については大きく減少し、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」については微増となっています。

## 2 主な介護者様用の調査項目（B票）

### (1) 主な介護者の勤務形態

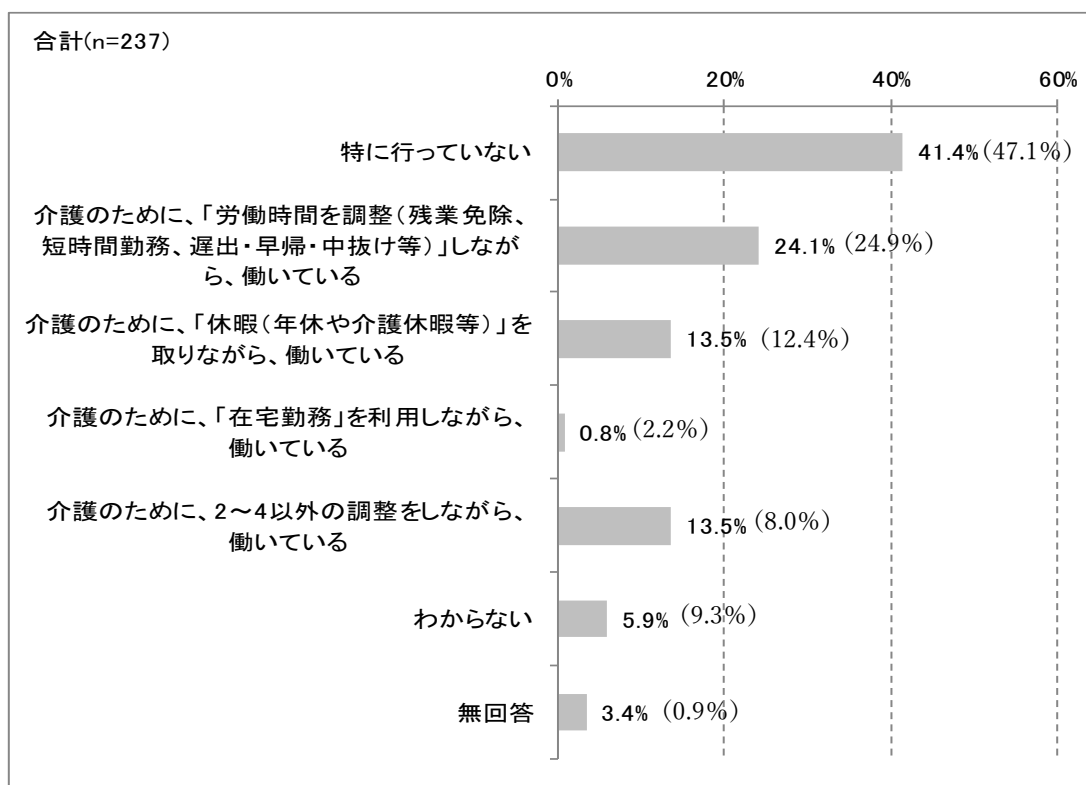
図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）



主な介護者の勤務形態では、「働いていない」が過半数を占めていますが、前回調査時と比較すると、その割合は減少しています。

### (2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

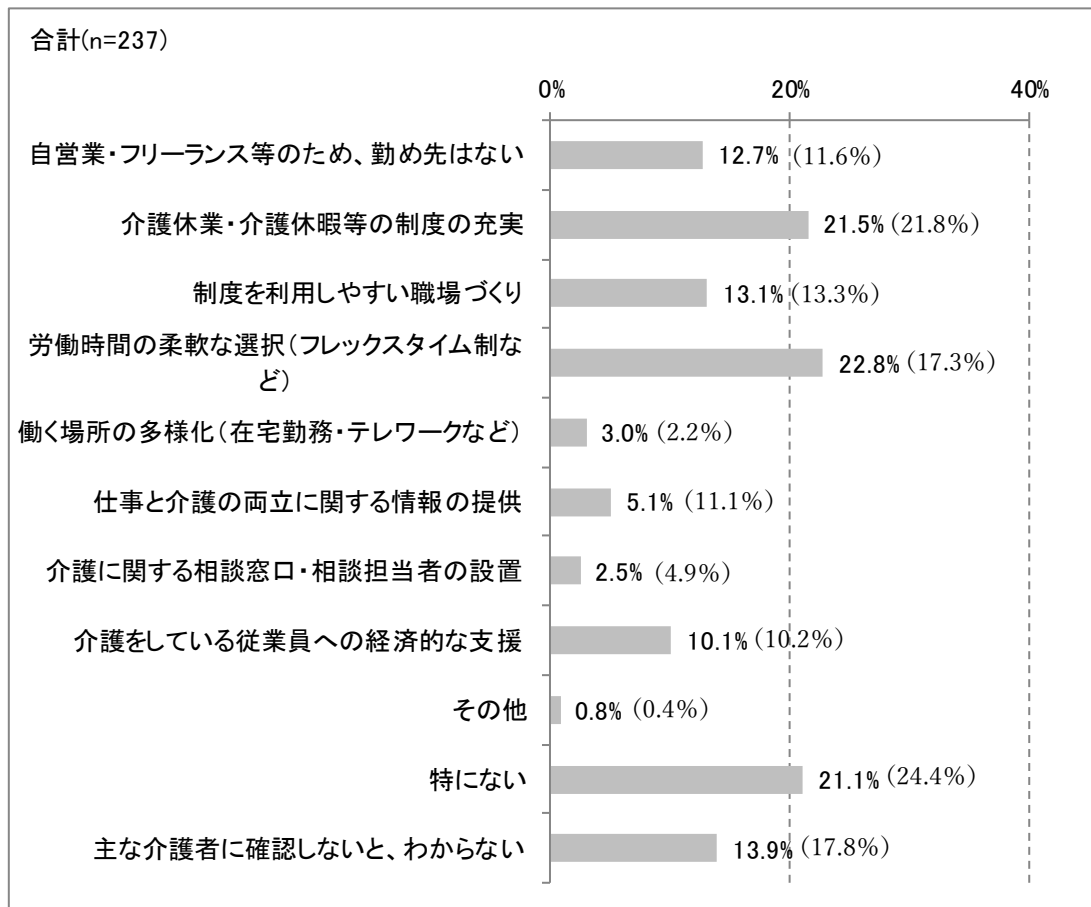
図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



主な介護者の働き方の調整の状況では、働き方の調整を「特に行っていない」者の割合が最も多くなっていますが、「短時間勤務」や「年休取得」等により労働時間を調整している者の割合も依然として多い状況です。

(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

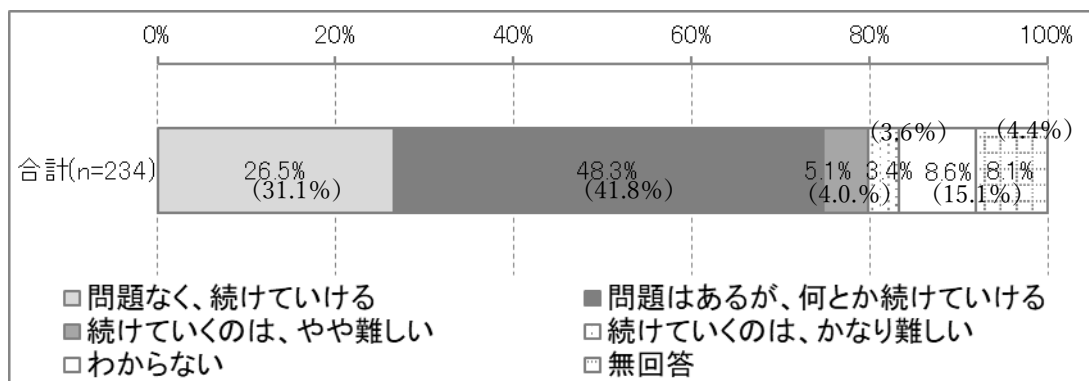
図表 2-3 ★就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援では、前回調査時と同様、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が高くなっていますが、今回新たに、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」の割合が増加し、最も多い回答となっています。

#### (4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

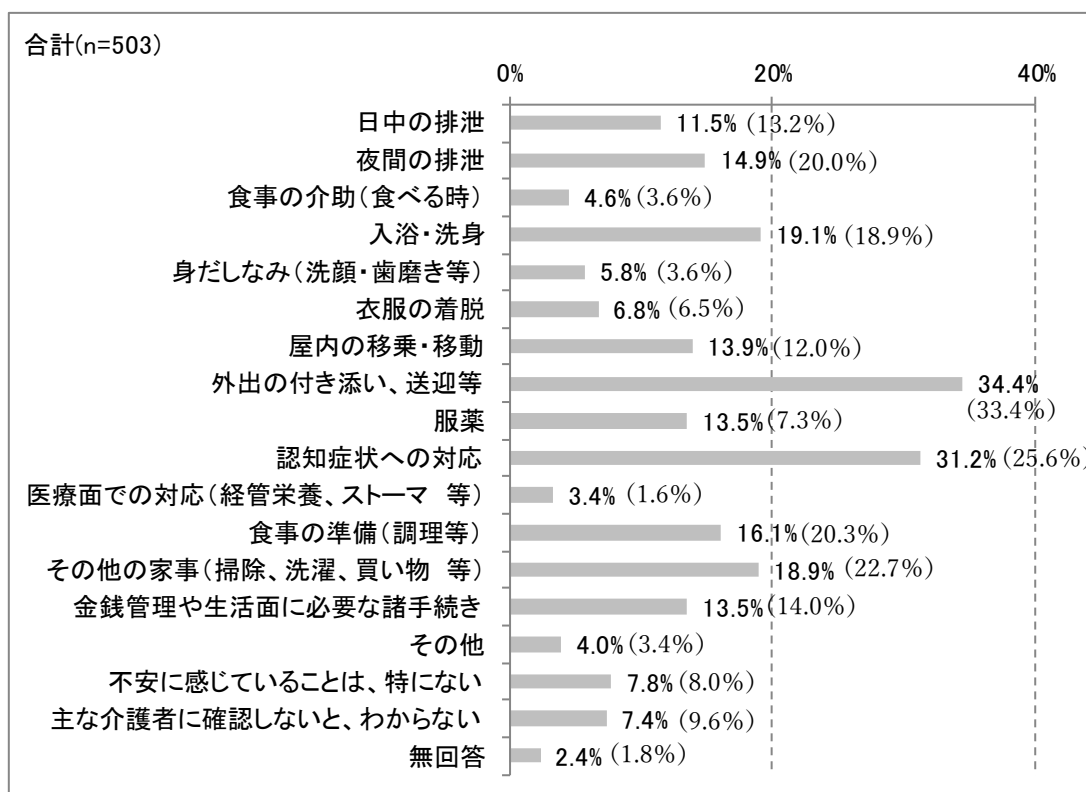
図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識 (単数回答)



主な介護者の就労継続の可否に係る意識では、前回調査時と同様、「問題なく、続けていける」、「問題はあるが、何とか続けていける」が7割を超えています。

#### (5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護 (複数回答)

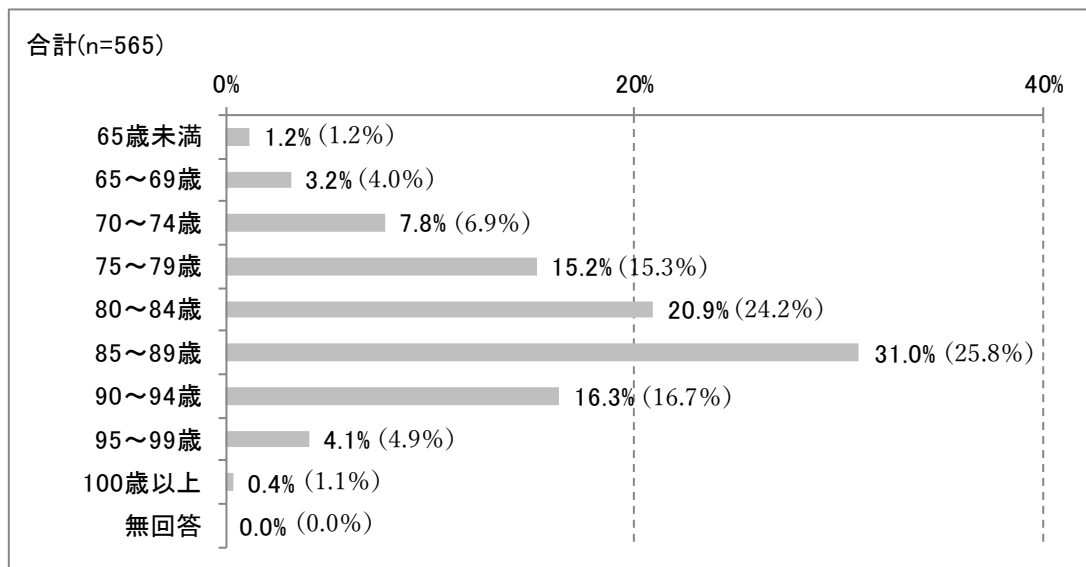


今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護では、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」の割合が高くなっています。

### 3 要介護認定データ

#### (1) 年齢

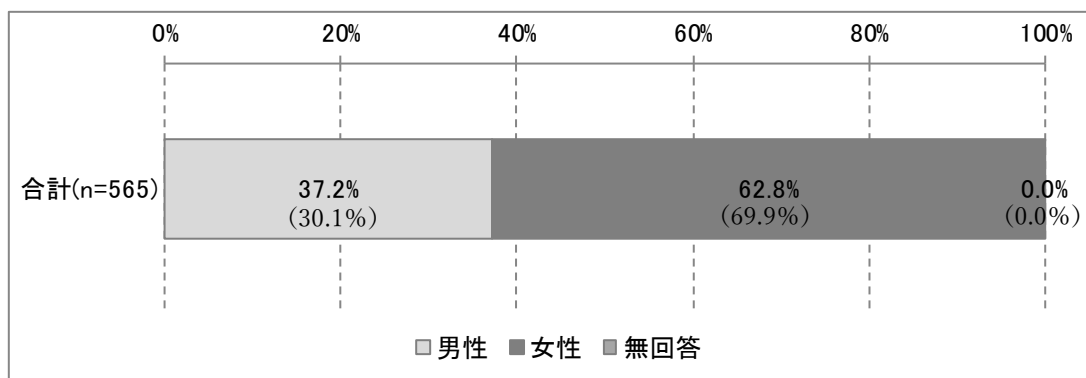
図表 3-1 年齢



要介護・要支援認定者（調査対象者）の年齢は「85～89歳」の割合が最も高く、次いで「80～84歳」の割合が高くなっています。

#### (2) 性別

図表 3-2 性別

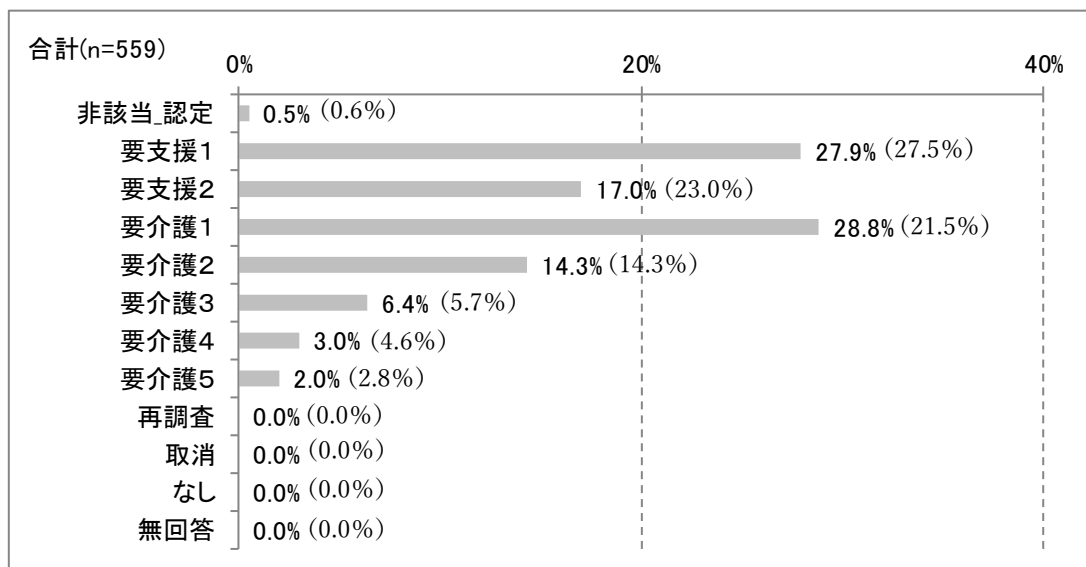


調査対象者の性別では、女性が約6割を占めています。



### (3) 二次判定結果（要介護度）

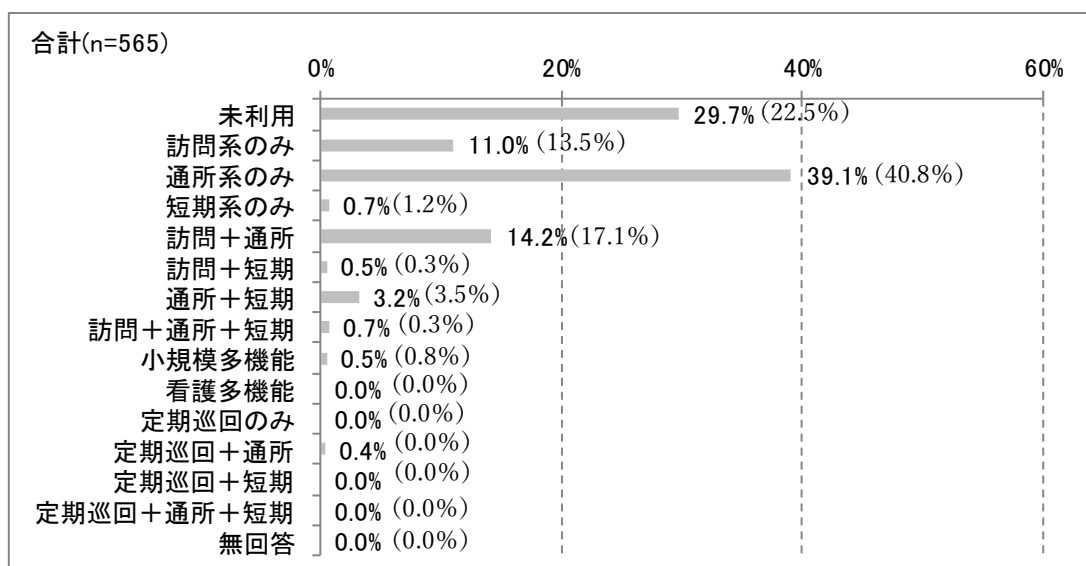
図表 3-3 二次判定結果



調査対象者の介護度は、「要支援1」～「要介護1」が約7割を占めています。

### (4) サービス利用の組み合わせ

図表 3-4 サービス利用の組み合わせ

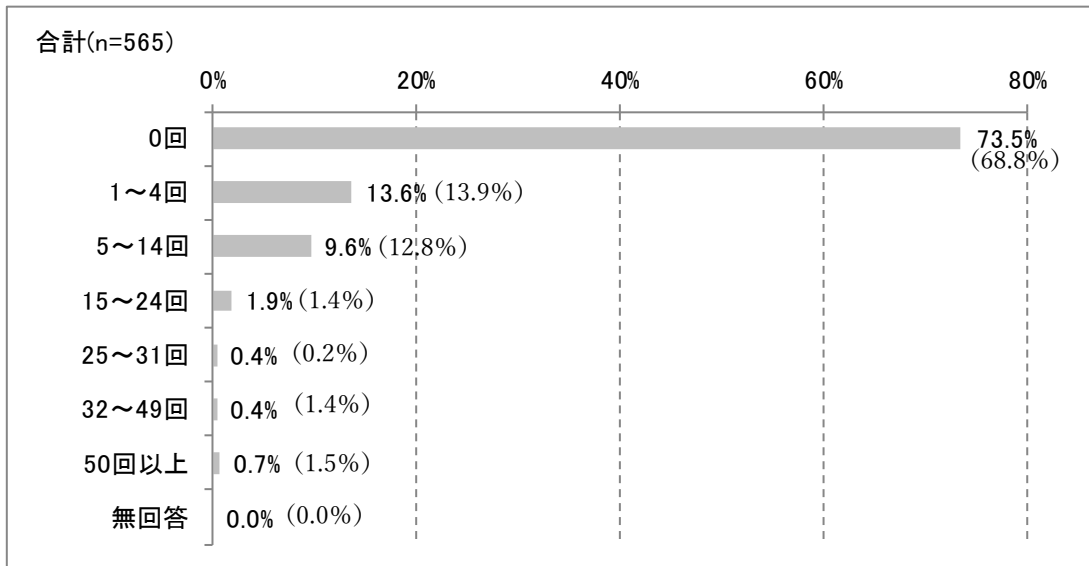


利用しているサービスは、「通所系のみ」が約4割で最も高く、次いで、「訪問+通所」の割合が高くなっています。

- ※訪問系・・・訪問介護・訪問入浴看護・訪問看護・訪問リハビリテーション・居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護（いずれも介護予防を含む）
- ※通所系・・・通所介護、通所リハビリテーション、認知症対応型通所介護（いずれも介護予防を含む）
- ※短期系・・・短期入所生活介護、短期入所療養介護（いずれも介護予防を含む）

(5) 訪問系サービスの合計利用回数

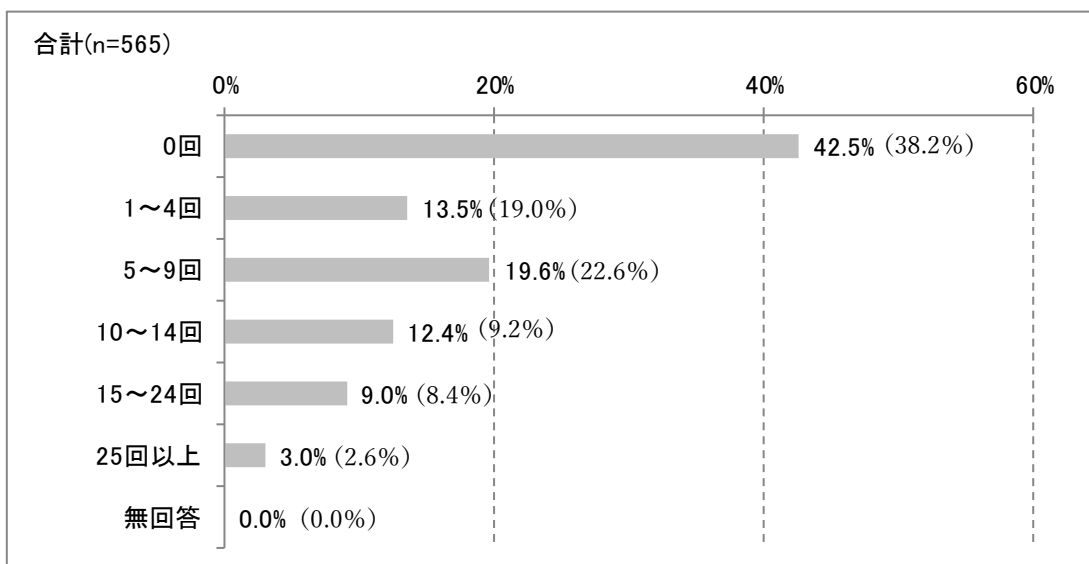
図表 3-5 サービスの利用回数（訪問系）



訪問系サービスを利用している場合、ひと月あたりの利用回数は、「1~4回」が最も多く、次いで「5~14回」が多くなっています。なお、前回調査時と比較すると、全体的に利用回数が減少しています。

(6) 通所系サービスの合計利用回数

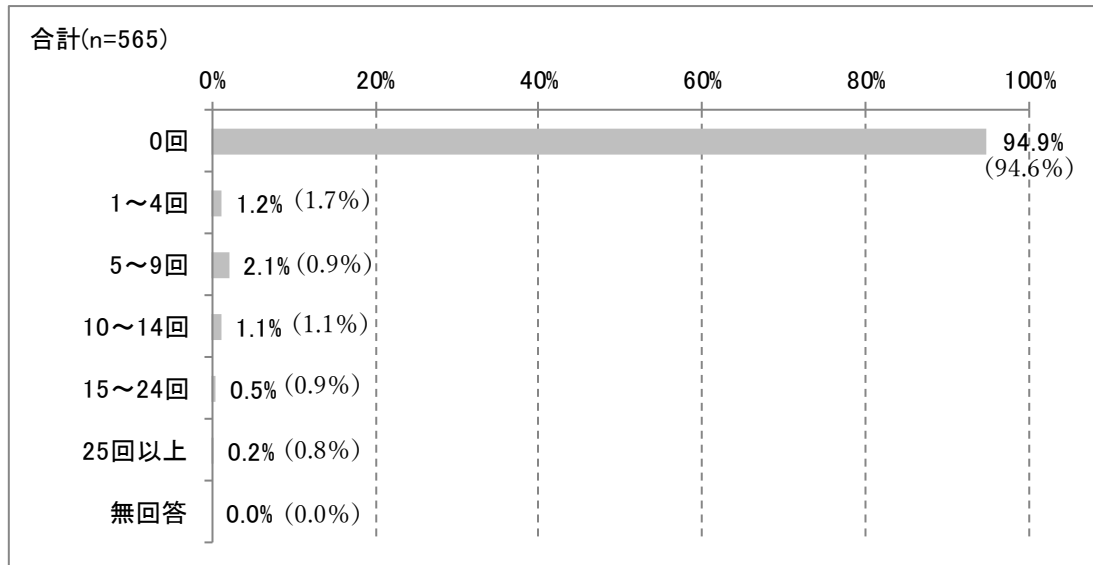
図表 3-6 サービスの利用回数（通所系）



通所系サービスを利用している場合、ひと月あたりの利用回数は、「5~9回」が最も多く、次いで「1~4回」が多くなっています。なお、訪問系サービスと同様に、前回調査時と比較すると、全体的に利用回数が減少しています。

(7) 短期系サービスの合計利用回数

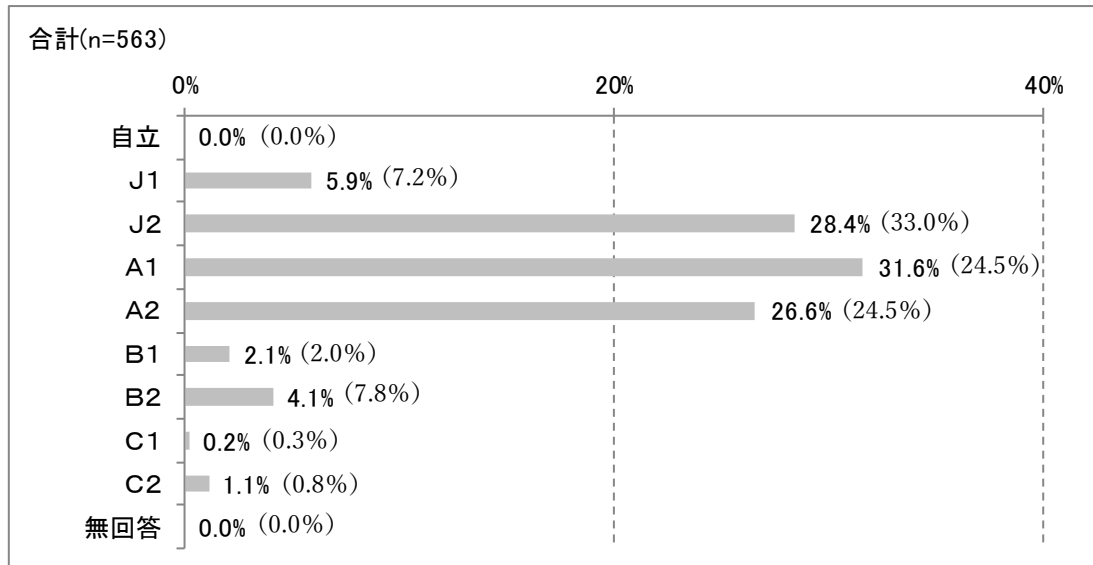
図表 3-7 サービスの利用回数 (短期系)



短所系サービスの利用は少ない状況です。

(8) 障害高齢者の日常生活自立度

図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度



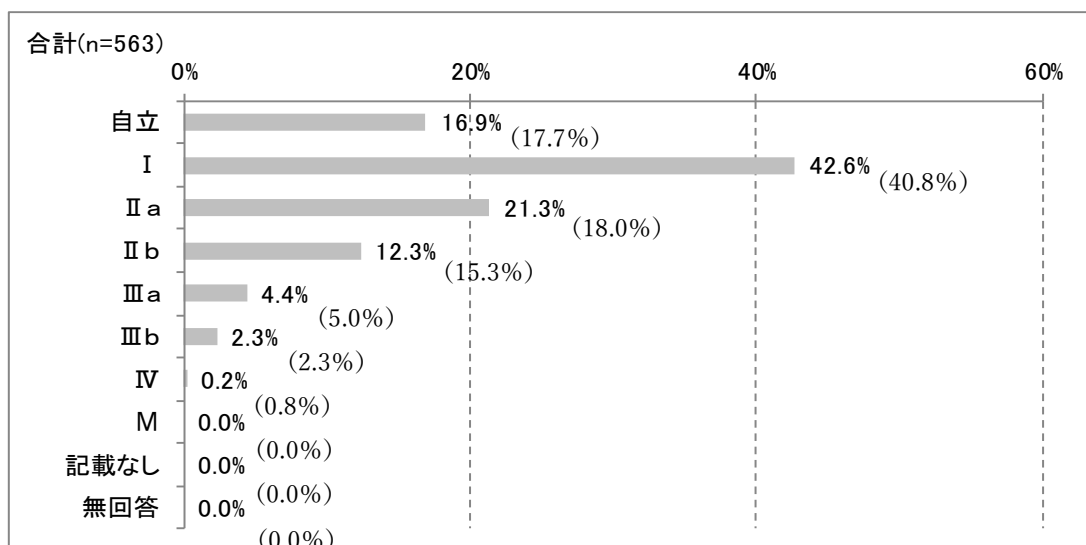
「A1」の割合が最も高く、次いで「J2」、「A2」の割合が高くなっています。

(参考：障害高齢者の日常生活自立度)

ランク		判断基準
生活自立	J	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。
		1 交通機関等を利用して外出する。
		2 隣近所へなら外出する。
準寝たきり	A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。
		1 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。
		2 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。
寝たきり	B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ。
		1 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。
		2 介助により車いすに移乗する。
	C	1 日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。
		1 自力で寝返りをうつ。
		2 自力では寝返りもうてない。

(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度



「I」の割合が最も高く、次いで「II a」、「自立」の割合が高くなっています。

(参考：認知症高齢者の日常生活自立度)

ランク	判断基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
II a	家庭外で上記IIの状態がみられる。	たびたび道に迷うとか、買物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
II b	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の応対や訪問者との対応など一人で留守番ができない等
III	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。	
III a	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる。やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
III b	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。	ランクIII aに同じ
IV	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

